



「第2の創業と位置づけているほどのチャレンジなんです」と有吉英二社長(57)は話す。2年前に着手した障害者、高齢者用シューズの開発のことだ。

同社は学校用上履きなどスクールシューズの草分け。近畿など地域によってはシェアは50%を占めているという。障害者、高齢者用のシューズの開発構想が動き始めたのは約10年前。「年々ニーズが高まっていることは明らかだったし、スクールシ

ラッキーベル

障害者、高齢者用シューズを開発

「ズで蓄積したノウハウ、技術が生かせる分野ですから」と有吉社長は話す。

スクールシューズで大切なポイントは何と言っても機能性。指の動きが妨げられず、通気性

が良く、軽い。そんな靴を追求してきた。「障害者や高齢者が求める機能と似ている」

高い機能性とコストダウン 中国生産で実現

「が、新たな挑戦によりさらに会社を活性化したい」と意気込む。

【大迫麻記子】



「機能性とファッション性を兼ね備えた靴を作りたい」と話す有吉英二社長

機能性を重視すればするほど当然コストがかかる。同社は、業界でも最も早く、約20年前に中国へ生産をシフトさせることで高い機能性とコストダウンの両方を実現してきた。現在はほぼ100%が中国生産だ。

高齢者用の「Laporter(ラポーター)」。お年寄りが地面に引っかけやすいことを考えて、底の前後を曲線にした。底を平面に作るより3倍のコストがかかる。「中国生産だからな

んとかできぬ」

今は売上げの95%がスクールシューズ。販路の開拓も始まったばかりだ。「スクールシューズという安定した分野でコツコツと現在の地位を築いてきた

メモ

1961年6

月創業。神戸市

長田区神楽町4の3の1

(078・621・53

31)。資本金9000

万円。年間売上高(03年

度)約12億円。従業員30

人。